

## (2) 長岡京跡の井戸

これまでに検出された長岡京期の井戸は、144基（宮域7基、左京域109基、右京域28基）を数える。左京域の検出例が全体の7割を超えており、これは1980年代後半以降に相次いで長岡京跡左京域における大規模開発と、その成果を収めた報告書の刊行によるところが大きい。長岡京跡の井戸に関しては既に山本輝雄氏によって詳細な検討作業が行われている。<sup>(4, 9)</sup> 本論では山本氏の研究以降に増加した井戸検出例の追加と、井戸側を中心とした若干の検討を行っている。

### A. 井戸側の分類

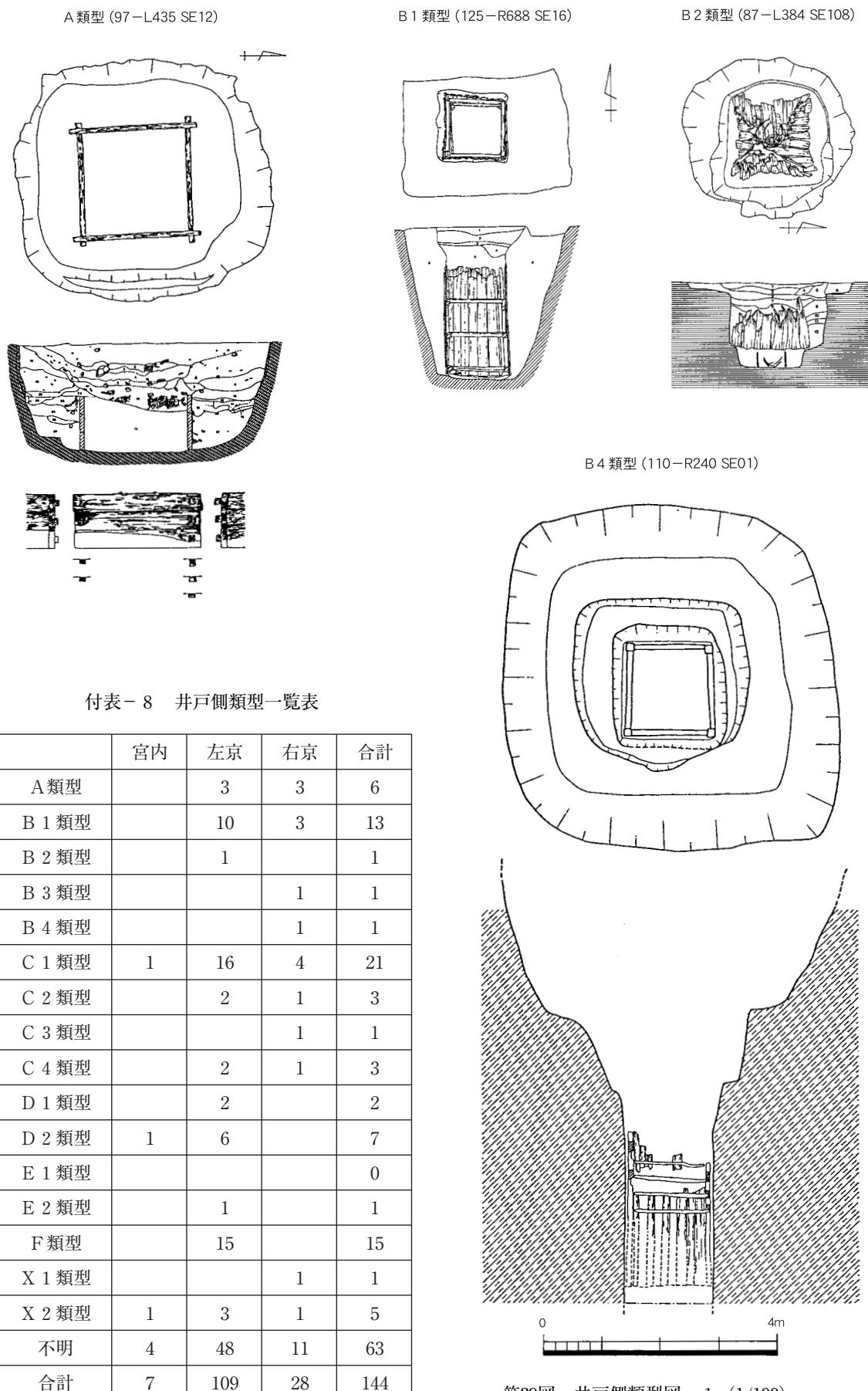
井戸は大きく井桁、井戸側、水溜めの3者で構成され、このうち井戸側に関しては宇野隆夫氏などの優れた研究がある。長岡京跡の検出例においても地表面上の構造物である井桁が確認された例ではなく、本論の検討対象からは除外した。また、水溜めについても本論の主対象が井戸側であること、井戸側との識別の困難さ、すなわち水溜めとしての意識を持って設置されたものか判断が難しいことから特別な検討は行っていない。なお、以下に示す類例の番号は 付表-10 長岡京跡井戸一覧表における井戸番号である。

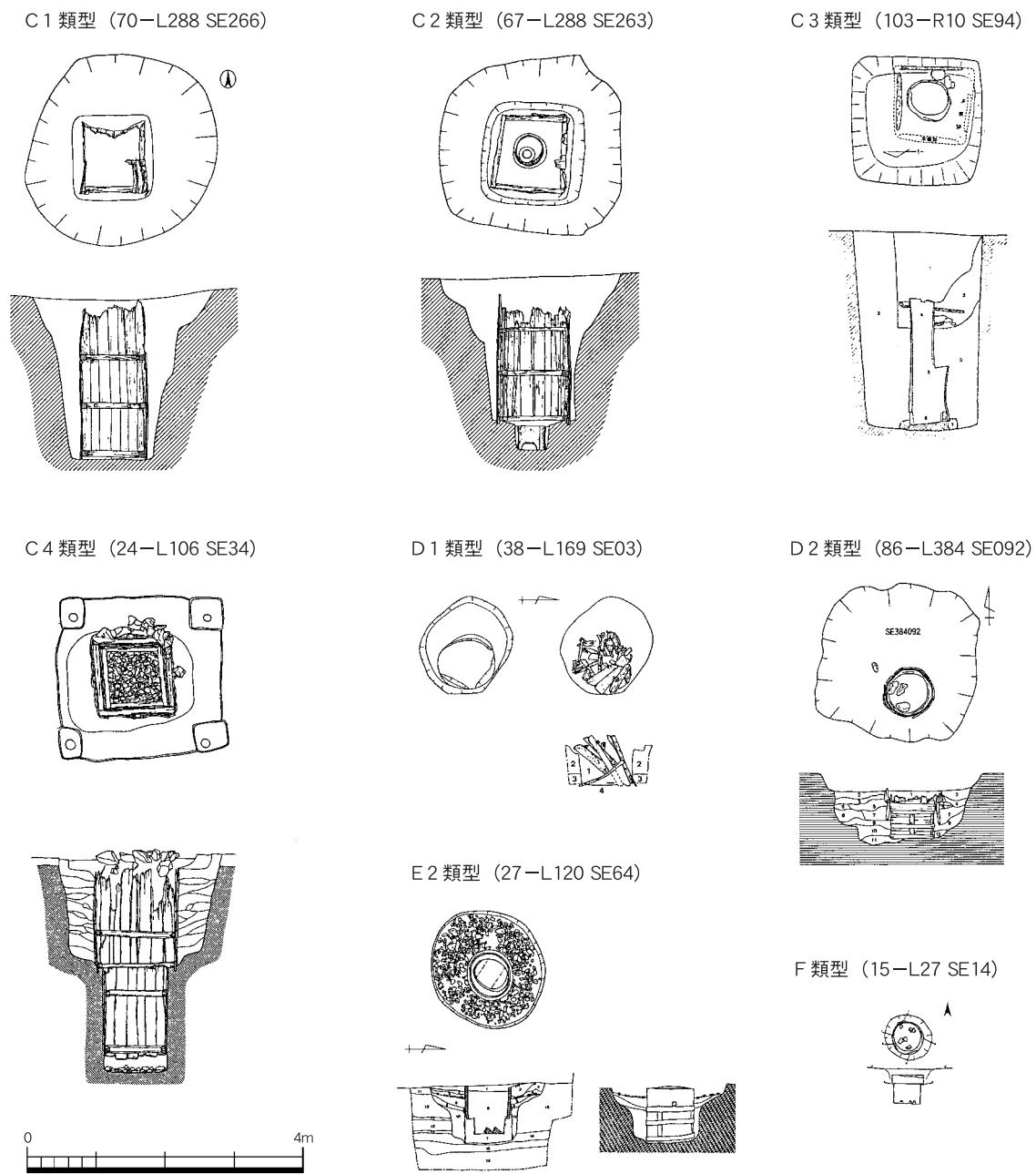
井戸側の分類では総数144基にのぼる検出例の中で、井戸側の残存状況が比較的良好で設置状況が窺えるものを主な対象とした。対象となった井戸は81基を数える。井戸側には石組を築くもの（109-右京第236次調査 井戸SE51）、須恵器を利用する例（98-左京第443次調査 井戸SE31）があるが、類例は少なく前述のものも井戸側の一部分や補強材としての利用であった。このため、井戸側を分類するためのより上位の概念である井戸側構成材に関しては検討を行っていない。

井戸側は湧水層ないし貯水点までの空間を保持するために設けられた開放型の地中構築物であり、単一形態の井戸側とともに、必要な深さを得るために同種あるいは異なった井戸側を積み上げて全体を構築する複合形態が存在する。複合形態の上部井戸側として多用されるのが、縦板組隅柱横桟どめ、縦板組横桟どめ、縦板組といった縦板を主要材とする類型であり、とくに縦板組隅柱横桟どめ、縦板組横桟どめ井戸側は深度を得るための最適な形態であったことが分かる。本論の分類では、まず、より上位の井戸側形態によってA～F・Xの7類型に大別し、次にそれぞれの類型を下位井戸側の有無および下位井戸側の形態によって細分した。なお、X類型には下位に井戸側が残っているものの、上位の形態が明らかでない例をまとめている。また、素掘り井戸として報告されている例が散見されるが、これらに関しては井戸側抜き取りの可能性が否定できないため、検討対象としての類型には含めなかった。

#### A類型 横板井籠組（6例）

厚さ10 前後の横板を出柄、入柄によって井籠形に組み合わせ、中央に設けられたダボにより横板を上へ上へと積み上げる。構造上井戸の開口部が広く、縦板組隅柱横桟どめ、縦板組横桟どめに比べて浅い井戸となる。東院で検出された97-左京第435次調査 井戸SE12は本類型の典型例であり、長岡京跡における最大規模の井戸である。A類型には複合形態の確実な例がなく細分を行っていないが、宮内第178次調査の2-井戸SE05では壁面に残る痕跡から井籠組と曲物の複合形態として報告されている。





第40図 井戸側類型図 - 2 (1/100)

## B類型 縦板組隅柱横桟どめ (16例)

四隅の角材に設けた枘穴に横桟をはめ込み、隅柱と横桟によって縦板を保持する形態。このB類型は下位の井戸側の有無・形態によって、井戸側がないもの（B1類型・13例）、曲物との複合形態（B2類型・1例）、石組との複合形態（B3類型・1例）、縦板組隅柱横桟どめ井戸側を複数段積み上げるもの（B4類型・1例）に細分できる。

## C類型 縦板組横桟どめ (28例)

隅柱を用いることなく、出枘、入枘で組んだ横桟により縦板を保持する形態。C類型も下位の井戸側がないもの（C1類型・21例）、曲物との複合形態（C2類型・3例）、丸太削り抜

きとの複合形態（C 3類型・1例）、縦板組横桟どめ井戸側を複数段積み上げるもの（C 4類型・3例）に細分される。なお、B類型にも丸太削り抜き井戸側などとの複合形態の存在が予想される。B類型の下位井戸側形態としての縦板組横桟どめ井戸側、C類型の下位井戸側形態としての縦板組隅柱横桟どめ井戸側が存在するか否かは、さらにそれぞれの技術的な検討を行う必要がある。また、本調査井戸SE05のように上下の横桟間に支柱を設置する例（67-左京第288次調査 井戸SE263）があるが、支柱は横桟の補強補助材であり、今回行った分類上の概念とは性格が異なるため検討対象には含めなかった。

#### D類型 縦板組（9例）

横桟を使うことなく、短い縦板を円形ないし方形に並べるもの。单一形態（D 1類型・2例）と、曲物との複合形態（D 2類型・7例）に分かれる。縦板の強度を考慮すれば、曲物以上に井戸全体の深さが増す井戸側とは複合しないものと考えられる。また、D 2類型は曲物の補強材と考えることも可能であり再検討を要する。

#### E類型 丸太削り抜き（1例）

丸太削り抜き材を井戸側とするもので、検出例としては曲物との複合形態（E 2類型・1例）がある。单一形態のE 1類型はE 2類型よりその存在を想定したもので検出例はない。

#### F類型 曲物（15例）

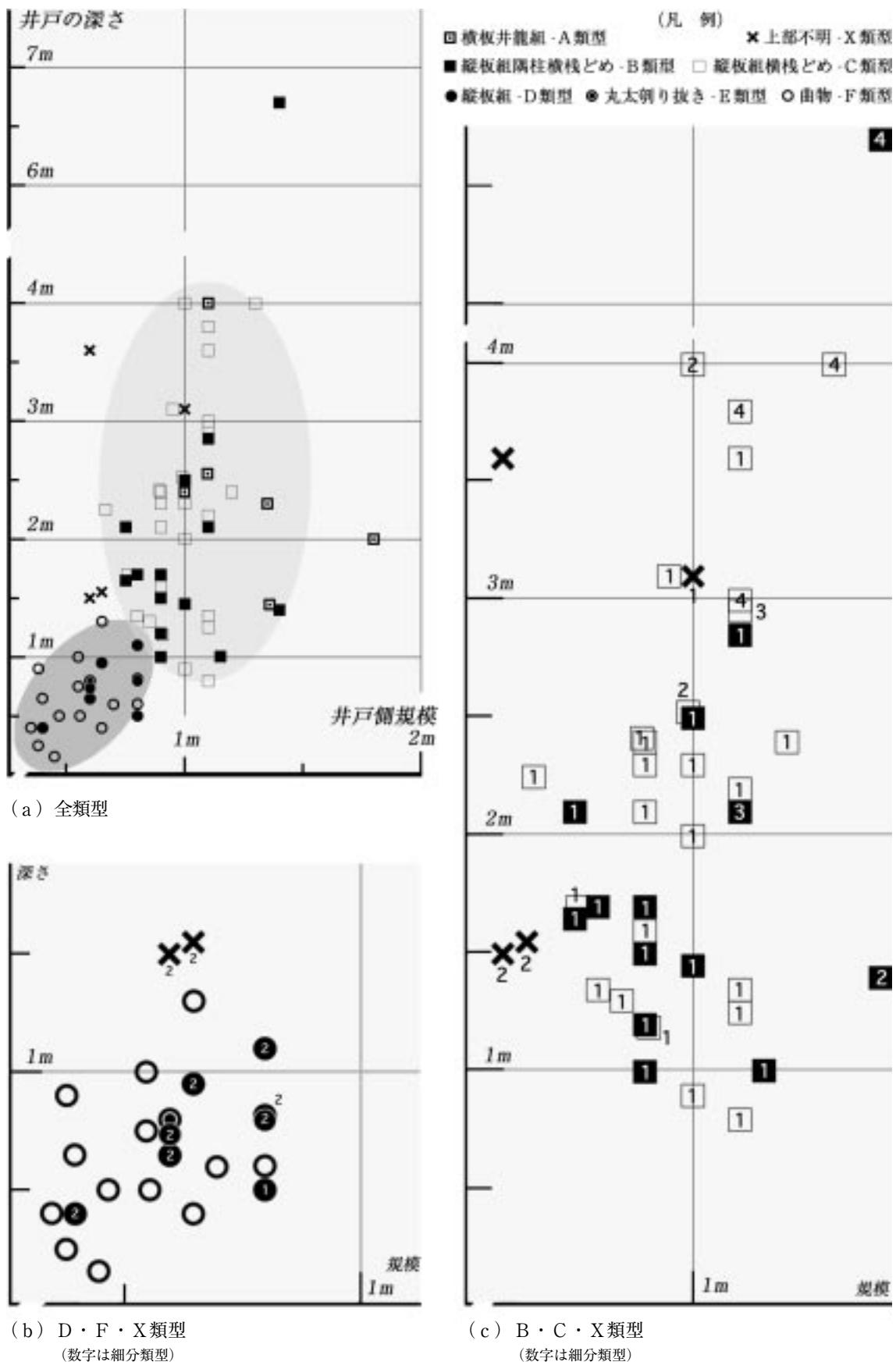
曲物を井戸側とするもので、複数段積み上げることで全体の深度を確保するものが多い。A～F類型と比較して強度的に劣っており、最大径が曲物の大きさに制約されることから、下位井戸側に他の形態を用いることがない。井戸側として利用された曲物が全て生活道具の転用と判断し得るのか、井戸側専用の曲物の存在を検討する必要があるだろう。

#### X類型 上位井戸側不明（6例）

A～F類型とは分類概念が異なるが、下位に井戸側が残存するものの抜き取りによって上位の井戸側形態が判然としない例を集めた仮類型である。下位形態に丸太分割井戸側を用いるもの（X 1類型・1例）、曲物を用いるもの（X 2類型・5例）があり、これらは複合形態ないし同一井戸側を積み上げた形態と考えられる。

### B. 井戸側類型と井戸の深さ

第41図の分布グラフでは井戸側の平面規模と、検出面から底部まで井戸全体の深さの関係を示した。グラフ（a）には全類型が含まれており、A類型、B・C類型、D・F類型が法量的なまとまりを示すことが理解できる。すなわち、A類型は井戸の開口部が広く、長い縦板を横桟で支持するB・C類型は開口部の広さに比べて深い井戸が構築される。また、曲物を用いるD 2・F類型は開口部と深さが1対2となる比率を中心に分布している。グラフ（c）では縦板組のB・C類型と上位井戸側が明らかでないX類型を抽出した。各細分類型は開口部の広さに大きな違いが認められないが、大まかに見て单一形態のB 1・C 1類型、異なった井戸側との複合形態のB 2・B 3・C 2・C 3類型、同一形態を積み上げるB 4・C 4類型の順に深さが増すことが分かる。また、B類型とC類型の関係、すなわち隅柱の有無は法量的なまとまり



第41図 井戸側の平面規模と井戸の深さ

として反映されないことが指摘できる。B類型はその構造からC類型と比較してより強度が期待でき、長岡京跡の井戸のなかで最も深い例（110-右京第240次調査 井戸SE01）も認められる。しかし、110は同一形態の井戸側を積み上げたB4類型であり、上位井戸側が1段と想定されるB1～3類型は全体の深さが3mまでに限られ、多くは深さ1～2m弱の間に分布している。このような分布の背景には隅柱として用いられる角材の長さに井戸側全体の深さが制約を受けた状況が推測され、対するC1～3類型では過半数が深さ2mを超えている。

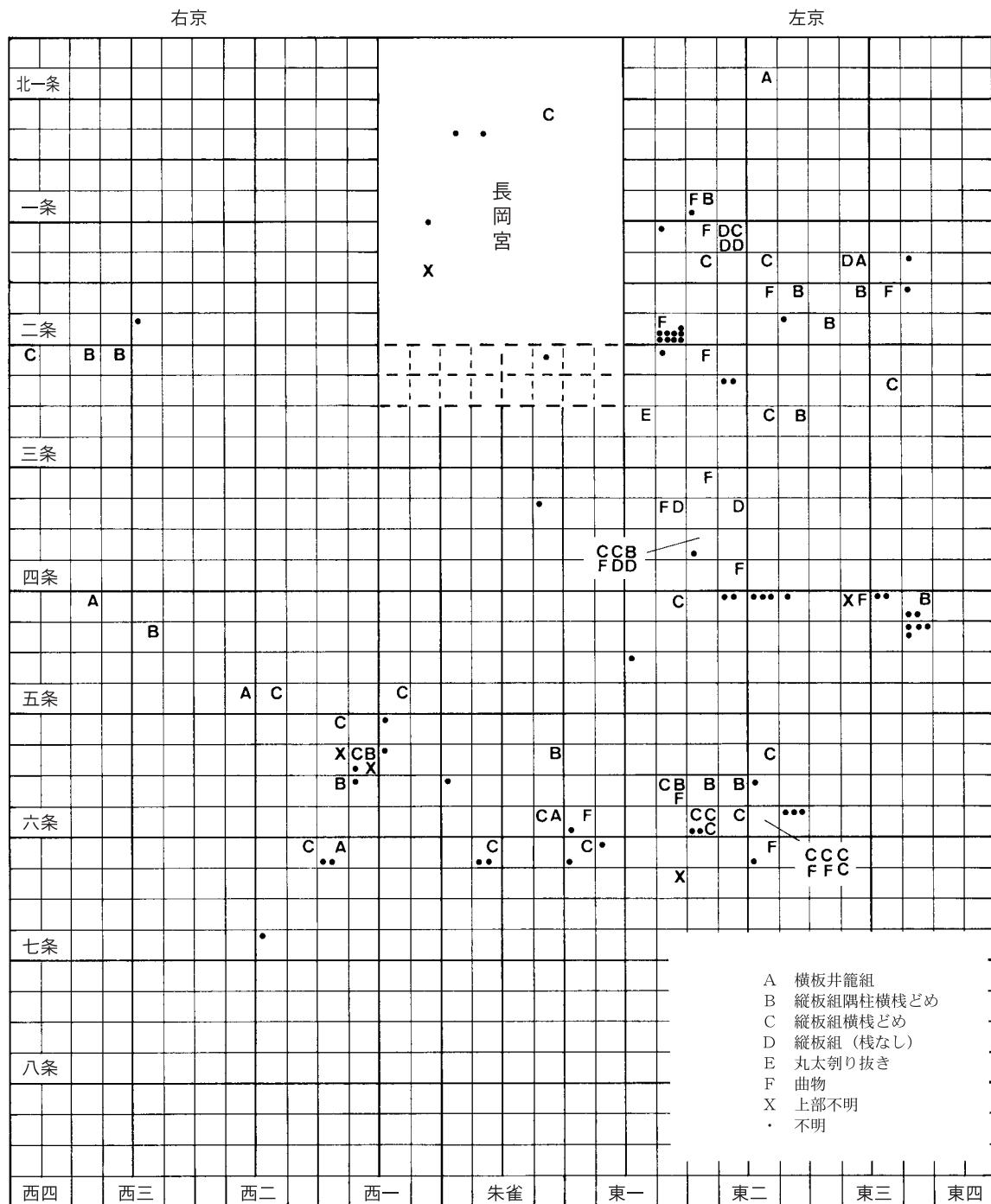
单一形態の確認を再度行わなければならないが、B1・C1類型を見れば深さ0.8～1.7m、2～2.5m、そして3mを超えるものにグループ化できる。この分布は井戸検出面から底部までの深さで検出面の削平を考慮しなければならないが、地中に納められる縦板の長さ、すなわち、入手可能な縦板に大・中・小の規格が存在した可能性が推察される。今回、資料の提示はできなかったが、B・C類型における縦板の最大残存長は2.3mを測り、2m弱、1.5m前後、1m前後のまとまりが予見される。また、C4類型では完全な状態で残されていた下位井戸側から、井戸構築時の縦板の長さ1.1m（47-左京第210次調査 井戸SE37）、1.3m（24-左京第106次調査 井戸SE34）、1.9m（124-右京第668次調査 井戸SE01）の値が得られた。縦板の長さ規格と納めることのできる井戸側の高さとの検討作業は、井戸側抜き取り痕跡や掘形の形態とともに、上部井戸側形態が明らかでないX類型、完全に井戸側が抜き取られ対象から除外した井戸掘形の井戸側復元や性格解明の手段となるだろう。例えば、底部に曲物を伴うX2類型の浅いもの（2-宮内第178次調査 井戸SE05、17-左京第53次調査 井戸SE17）は全体の深さが曲物積み上げによるものではなく、高さ1m強の小規模な縦板組横桟どめ井戸側との複合形態を考えることができる。また、119（右京第408次調査 井戸SE03）では、大規模な縦板組横桟どめないし二段積み上げの縦板組横桟どめとの複合形態の可能性が指摘できる。

### C. まとめ

今回の検討作業では井戸という対象の大きさに対する力量不足が災いし、多くの重要な検討課題に言及できなかった。井戸側内部では横桟や横板の規格性、「濾過」施設と判断されている底部の礫や炭の役割、水溜め構造の検討などが挙げられる。また、井戸掘形や出土遺物の検討も残された課題である。さらに、長岡京跡では宅地内における井戸付随施設と溝・建物・柵・門などを含めた配置状況の確認が他の都城に比べて容易であり、井戸という性格の明らかな遺構が基本的なレイアウト（導線）の復元に果たす役割は大きいと言える。長岡京跡全域における井戸や井戸側類型の分布（第42図）には予想される水位と井戸の深さとの関連（井戸底部の標高をもとにした水位の復元）、井戸検出例が著しい宅地の存在など、有意なまとまりを見出せる要素は非常に限られている。逆に、右京六条一坊十一・十二町では大規模な発掘調査が行われているにも関わらず井戸が確認されておらず、井戸をほとんど必要としない特別な施設の存在が予想されている。他の都城や乙訓地域における井戸の変遷など、残された多くの課題については、さらに検討を行い他日改めてその様相を提示したい。

付表-9 井戸側と井戸掘形対応表

井戸側類型	掘形の形態					
	円形	楕円形	不整形	長方形	方形	不明
横板井籠組	A	1			5	
縦板組隅柱横桟どめ	B 1~4	2			11	3
縦板組横桟どめ	C 1~4	5	1	1	20	1
縦板組	D 1・2	5	1		2	1
丸太削り抜き	E	1				
曲物	F	9	2	1	1	1
不明+曲物	X	4			1	
不明		17	6	1	22	18



第42図 長岡京跡井戸分布図

付表-10 長岡京跡井戸一覧表

区域	番号	調査次数	遺構番号	推定地	井戸側	類型	井戸側規模	掘形	掘形規模	文献
宮内	1	P99	S E01	内裏南方官衙	不明	-	径1m × 1.2m	円形	不明	(11)
	2	P178	S E05	朝堂院西方官衙	不明 + 曲物	X 2	不明 × 1.6m	円形	辺1.6m	(12)
	3	P217	S E24	北辺官衙（北部）	継板組・曲物 + 楠円形曲物	D 2	径0.8m × 0.81m	円形	径1.67m	(13)
	4	P248	S E31	朝堂院北西官衙	不明	-	不明 × 1.7m	方形	長2.9m	(14)
	5	P262	S E40	北辺官衙（南部）	不明	-	不明	-	不明	(15)
	6	P263	S E30	北辺官衙（南部）	継板組横桟どめ	C 1	辺1.1m × 1.35m	方形	辺0.9m	(16)
	7	P278	S E30	北辺官衙（南部）	不明	-	不明 × 3.8m	楕円形	長1.9m	(17)
左京	8	L4	S E10	四条二坊七町	継板組	D 1	辺0.7m × 不明	-	不明	(18)
	9	L10	S E04	一条二坊五町	曲物 + 曲物	F	径0.56m × 0.5m	楕円形	径1.0m	(19)
	10	L15	S E18	四条二坊十一町	円形継板組 + 曲物	D 2	径0.6m × 0.65m	円形	径0.9m	(20)
	11	L22	S E06	三条二坊八町	不明	-	不明 × 2.5m	円形	径1.5m	(21)
	12	L27	S E02	四条二坊十一町	継板組隅柱横桟どめ	B 1	辺0.75m × 2.1m以上	円形	径3.5m	(20)
	13		S E05	四条二坊十一町	継板組横桟どめ	C 1	辺0.67m × 2.25m以上	円形	径1.6m	
	14		S E08	四条二坊十一町	円形継板組 + 曲物 + 曲物	D 2	径0.6m × 0.75m	円形	径1.5m	
	15		S E14	四条二坊十一町	曲物 + 曲物	F	径0.47m × 0.5m	円形	径0.7m	
	16		S E25	四条二坊十一町	不明	-	不明 × 1.15m	円形	径1.7m	
	17	L53	S E17	七条二坊七町	不明 + 曲物 + 曲物	X 2	径0.65m × 1.55m	-	長1.2m	(22)
	18	L59	S E A01	五条四坊八町	継板組隅柱横桟どめ	B 1	辺0.8m × 1.7m	円形	径1.5m	(23)
	19		S E01	五条四坊一町	不明	-	不明 × 1.2m	方形	辺3.2m	
	20	L67B	S E03	五条三坊十六町	不明 + 曲物 + 曲物	X 2	径0.6m × 1.5m	円形	径2.5m	(24)
	21	L70	S E32	四条二坊九町	曲物	F	径0.65m × 0.4m	円形	長1m	(25)
	22	L76	S E01	五条四坊一町	不明	-	不明	-	不明	(26)
	23	L102	S E29	六条一坊五町	横板井籠組	A	辺1.35m × 2.3m	円形	長4.35m	(4)
	24	L106	S E34	五条二坊八町	継板組横桟どめ + 継板組横桟どめ	C 4	辺1.1m × 3m	方形	辺2.5m	(27)
	25	L118	S E08	一条二坊十二町	不明	-	不明 × 1.3m	円形	径1.6m	(28)
	26		S E18	一条二坊十二町	継板組隅柱横桟どめ	B 1	辺1m × 1.45m	方形	辺3.6m	
	27	L120	S E64	三条二坊三町	丸太刳り抜き + 曲物	E 2	径0.6m × 0.8m	円形	径1.7m	(29)
	28	L130	S E09	二条二坊九町	曲物	F	径0.8m × 0.6m	円形	径0.8m	(30)
	29	L133	S E134	三条四坊二町	継板組横桟どめ	C 1	辺1m × 2.0m	楕円形	長2.6m	(31)
	30	L140	S E2	五条三坊十六町	曲物 + 曲物 + 曲物	F	不明 × 1m	円形	径1.4m	(32)
	31		S E150	五条三坊一町	不明	-	不明	円形	不明	
	32		S E215	五条三坊一町	不明	-	不明	方形	辺2.4m	
	33	L145	S E20	四条二坊十五町	継板組 + 曲物 + 曲物	D 2	径0.4m × 0.4m	円形	径1.7m	(33)
	34	L157	S E04	一条二坊十二町	曲物	F	径0.45m × 0.16m	円形	径0.54m	(34)
	35	L159	S E16	二条三坊三町	曲物 + 曲物 + 曲物	F	辺0.4m × 0.65m	長方形	辺1.4m	(35)
	36		S E33	二条三坊二町	継板組横桟どめ	C 1	辺1.1m × 1.25m	方形	不明	
	37	L169	S E01	二条二坊十六町	円形継板組 + 曲物	D 2	径0.8m × 1.1m	円形	長1.5m	(36)
	38		S E03	二条二坊十六町	円形継板組 + 曲物	D 2	径0.8m × 0.8m	楕円形	長1.4m	
	39		S E04	二条二坊十六町	継板組横桟どめ	C 1	不明 × 0.8m	方形	長2.4m	
	40		S E16	二条二坊十六町	方形継板組	D 1	長0.8m × 0.5m	方形	辺1.3m	
	41	L172	S E08	二条三坊五町	不明	-	不明 × 0.6m	楕円形	長1.6m以上	(37)
	42	L204	S E20	七条一坊九町	不明	-	不明 × 2.3m	円形	径1.6m	(38)
	43		S E37	七条一坊九町	継板組横桟どめ	C 1	辺1.1m × 0.8m	円形	径4.5m	
	44		S E45	七条一坊十六町	不明	-	不明 × 1.05m	方形	辺1.6m	
	45	L209	S E10	二条二坊十五町	不明	-	不明 × 0.8m	方形	辺2.7m	(39)
	46		S E23	二条二坊十五町	不明	-	不明 × 0.7m	楕円形	長1.8m	
	47	L210	S E37	六条二坊十三町	不明 + 継板組横桟どめ + 継板組横桟どめ	C 4	辺1.1m × 3.8m	方形	長3.1m	(40)
	48	L214	S E59	三条三坊三町	継板組横桟どめ	C 1	辺0.76m × 1.7m	長方形	長1.85m	(41)
	49	L215	S E02	五条二坊三町	不明	-	不明 × 0.8m	楕円形	長1.4m	(42)
	50	L230	S E23	六条二坊十二町	継板組横桟どめ	C 1	辺1.1m × 2.2m	方形	辺3m	(43)
	51	L242	S E14	四条二坊十三町	曲物	F	径0.38m × 0.25m	楕円形	長1.1m	(44)
	52	L267	S E06	二条三坊十二町	継板組隅柱横桟どめ	B 1	辺0.9m × 1m	方形	径1.5m	(45)
	53	L269	S E16	六条一坊十二町	曲物 + 曲物 + 曲物	F	径0.55m × 1m	円形	径1.1m	(2)
	54		S E17	六条一坊十二町	不明	-	不明 × 2.1m	方形	辺2m	

区域	番号	調査次数	遺構番号	推定地	井戸側	類型	井戸側規模	掘形	掘形規模	文献
左京	55	L276	S E11	二条二坊五町	不明	—	不明×0.5m	方形	長3m	(46)
	56		S E12	二条二坊五町	不明	—	不明×0.6m	方形	長2.6m	
	57		S E13	二条二坊五町	不明	—	不明×0.7m	円形	長2.6m	
	58		S E14	二条二坊五町	不明	—	不明×1.2m	方形	長2.7m	
	59		S E15	二条二坊五町	不明	—	不明×1.1m	方形	長2.6m	
	60		S E16	二条二坊五町	不明	—	不明×0.8m	円形	長3.3m	
	61		S E17	二条二坊五町	不明	—	不明×0.6m	円形	長2.5m	
	62		S E18	二条二坊五町	不明	—	不明×0.8m	円形	長2.3m	
	63		S E19	二条二坊五町	不明	—	不明×0.8m	不整形	長2m	
	64	L287	S E11	二条二坊十町	縦板組横桟どめ+曲物+曲物	C 2	辺0.8m×1.35m	方形	長1.9m	(47)
	65	L288	S E261	六条三坊四町	曲物	F	径0.55m×0.75m	円形	径1m	(48)
	66		S E262	六条三坊四町	縦板組横桟どめ	C 1	辺1m×2.3m	円形	径1.2m	
	67		S E263	六条三坊四町	縦板組横桟どめ+曲物	C 2	辺1m×2.5m	方形	辺2.5m	
	68		S E264	六条三坊四町	不明	—	不明×1.2m	楕円形	長3.3m	
	69		S E265	六条三坊四町	不明	—	不明×0.75m	円形	径1.2m	
	70		S E266	六条三坊四町	縦板組横桟どめ	C 1	辺0.9m×2.4m	円形	径2.7m	
	71		S E267	七条三坊一町	不明	—	不明×0.7m	円形	径1.2m	
	72		S E268	七条三坊一町	不明+曲物	F	径0.38m×0.9m	円形	径1.1m	
	73	L295	S E25	六条三坊二町	縦板組横桟どめ	C 1	辺0.9m×2.1m	方形	辺1.5m	(49)
	74	L297	S E07	六条二坊十二町	不明	—	不明×1.7m	円形	径3.5m	(50)
	75		S E09	六条二坊十二町	不明	—	不明×1.8m	円形	径2m	
	76	L298	S E501	三条二坊九町	曲物	F	径0.35m×0.4m	円形	長0.9m	(51)
	77	L299	S E15	四条一坊七町	不明	—	不明×0.6m	方形	辺1.4m	(52)
	78	L306	S E258	六条三坊三町	不明	—	不明×1m	楕円形	長2.2m	(48)
	79		S E259	六条三坊四町	縦板組横桟どめ	C 1	辺0.85m×1.3m	円形	径1.3m	
	80		S E260	六条三坊四町	不明(曲物か)+曲物	F	径0.65m×1.3m	円形	径1.3m	
	81	L333	S E002	二条四坊三町	不明+曲物	X 2	不明×1.1m	円形	径1.3m	(53)
	82	L334	S E007	二条四坊七町	不明	—	不明×2.2m	方形	長2.4m	
	83	L341	S E03	二条三坊六町	縦板組隅柱横桟どめ	B 1	辺0.9m×1.2m	方形	長1.93m	(54)
	84	L363	S E084	二条三坊十五町	横板井籠組	A	辺1.1m×2.55m	方形	辺2.3m	(53)
	85	L364	S E269	六条三坊五町	不明	—	不明×1m	長方形	長1.9m	(48)
	86	L384	S E092	二条三坊十五町	縦板組+曲物+曲物	D 2	径0.65m×0.95m	方形	辺2.2m	(53)
	87		S E108	二条三坊十四町	縦板組隅柱横桟どめ+曲物	B 2	辺1.4m×1.4m	方形	辺1.8m	
	88	L385	S E537	二条四坊六町	不明	—	不明×0.8m	円形	径1.2m	(53)
	89	L407		六条二坊六町	縦板組隅柱横桟どめ	B 1	不明	—	不明	
	90			六条二坊六町	縦板組横桟どめ	C 1	不明	—	不明	
	91			六条二坊六町	曲物	F	不明	—	不明	
	92	L414	S E23	六条二坊十二町	縦板組横桟どめ	C 1	辺1.2m×2.4m	方形	辺2.7m	(55)
	93		S E39	六条二坊十二町	縦板組横桟どめ	C 1	辺0.9m×2.4m	方形	長2.5m	
	94		S E59	六条二坊十一町	縦板組隅柱横桟どめ	B 1	辺1.2m×不明	—	不明	
	95		S E78	六条二坊十四町	縦板組隅柱横桟どめ	B 1	辺0.9m×1.7m	方形	長2m	
	96		S E150	六条二坊十一町	縦板組横桟どめ	C 1	辺0.9m×1.2m	方形	長1.8m	
	97	L435	S E12	北一条三坊二町	横板井籠組	A	辺1.8m×2m	方形	長4.2m	(56)
	98	L443	S E31	四条二坊七町	曲物+曲物+曲物	F	径0.7m×0.6m	方形	辺2.5m	(57)
	99	L444	S E19	六条一坊七町	縦板組隅柱横桟どめ	B 1	辺0.9m×1.5m	方形	辺3m	(58)
	100	L479	S E05	六条一坊五町	縦板組横桟どめ	C 1	辺0.9m×2.3m	方形	長3m以上	本書
	101	XL8316	S E3	三条三坊六町	縦板組隅柱横桟どめ	B 1	辺1.15m×1m以上	—	不明	(59)
右京	102	R10	S E40	七条一坊一町	不明	—	不明×5.4m	方形	長3.5m	(60)
	103		S E94	七条一坊一町	縦板組横桟どめか+丸太削り抜き	C 3	辺1.1m×2.94m	方形	辺1.9m	
	104	R28	S E80	七条一坊一町	不明	—	不明×4m	方形	長3.7m	(61)
	105	R111	S E15	七条二坊九町	縦板組横桟どめ	C 1	辺1m×0.9m	方形	辺1.2m	(62)
	106	R128	S E06	七条二坊十三町	不明	—	不明×0.7m	円形	径1.6m	(63)
	107	R155	S E12	六条二坊七町	不明+丸太分割削り抜き	X 1	径1m×3.1m	方形	長4.4m	(64)
	108	R196	S E03	六条一坊十五町	不明	—	不明×2.5m	方形	辺2.8m	(65)

区域	番号	調査次数	遺構番号	推定地	井戸側	類型	井戸側規模	掘形	掘形規模	文献
右京	109	R236	S E51	三条四坊一町	継板組隅柱横桟どめ+円形石組み	B 3	辺1.1m×2.1m	方形	辺3.2m	(66)
	110	R240	S E01	三条四坊八町	不明+不明+継板組隅柱横桟どめ	B 4	辺1.4m×6.7m	方形	辺5.8m	(67)
	111	R246	S E01	五条四坊八町	横板井籠組	A	辺1.1m×4m	方形	長4.8m	(68)
	112	R279	S E03	六条一坊六町	不明	—	不明×4m以上	方形	辺4m	(69)
	113	R304	S E01	六条二坊三町	不明	—	不明×3.6m	方形	辺4.4m	(70)
	114	R314	S E06	六条二坊二町	継板組隅柱横桟どめ	B 1	辺1.1m×2.85m	方形	長2.6m	(71)
	115	R364	S E09	七条二坊八町	不明	—	不明×1.9m	方形	辺1.5m	(72)
	116	R365	S E02	六条二坊二町	継板組横桟どめ	C 1	辺1.1m×3.6m	方形	長2.8m	(73)
	117	R370	S E40	五条三坊四町	横板井籠組	A	1m×2.4m	方形	辺2.5m	(74)
	118	R389	S E14	五条二坊十三町	継板組横桟どめ	C 1	辺0.9m×1.6m	方形	長2.8m	(75)
	119	R408	S E03	六条二坊二町	不明+曲物	X 2	径0.6m×3.6m	方形	辺3.3m	(76)
	120	R442	S E24	六条二坊八町	継板組横桟どめ	C 1	辺0.95m×3.1m	方形	辺2m	(77)
	121	R479	S E14	七条二坊八町	不明	—	不明	方形	長1.2m	(78)
	122	R513	S E24	五条一坊十三町	継板組横桟どめ+曲物	C 2	1m×4m	方形	長2.7m	(79)
	123	R663	S E02	五条三坊十五町	継板組隅柱横桟どめ	B 1	辺0.75m×1.65m	方形	長1.73m	(80)
	124	R668	S E01	三条四坊十六町	継板組横桟どめ+継板組横桟どめ	C 4	辺1.3m×4m	方形	辺2m	(81)
	125	R688	S E16	六条二坊六町	継板組隅柱横桟どめ	B 1	辺1m×2.5m	方形	辺2.1m	(82)
	126	XR81006	S E01	六条二坊二町	不明	—	不明	方形	長2.4m	(83)
	127	XR84109	S E01	二条三坊十三町	不明	—	辺0.9m×3.2m	方形	辺3m	(84)
	128	XR93300	S E25	七条二坊八町	横板井籠組	A	辺1.36m×1.44m	方形	長2.8m	(85)
	129	XR96065	S E01	六条一坊十六町	不明	—	不明×2m以上	方形	辺2.2m	(86)
左京	130	L2		不明	—	不明	—	不明	—	(87)
	131	L14	S E08	二条二坊八町	不明	—	不明	—	不明	(88)
	132	L38A	S E01	不明	—	不明	—	不明	—	
	133	L62	S E01	不明	—	不明	—	不明	—	
	134		S E409	不明	—	不明	—	不明	—	
	135	L93	S E80	五条三坊八町	不明	—	不明	—	不明	(89)
	136	L164	S E379	五条二坊十六町	不明	—	不明	—	不明	(90)
	137		S E405	五条二坊十六町	不明	—	不明	—	不明	
	138	L174	S E2	五条四坊八町	不明	—	不明	—	不明	(91)
	139		S E3	五条四坊八町	不明	—	不明	—	不明	
	140		S E4	五条四坊九町	不明	—	不明	—	不明	
	141		S E5	五条四坊九町	不明	—	不明	—	不明	
	142		S E6	五条四坊九町	不明	—	不明	—	不明	
	143		S E7	五条四坊九町	不明	—	不明	—	不明	
	144		S E45	五条三坊一町	不明	—	不明	—	不明	

(付表-10) 長岡京跡井戸一覧表の凡例

- 一覧表は宮・左京・右京の順に記載したが、左京域の詳細不明のものは最後にまとめて記載した。
- 調査次数のうち頭文字に「X」と表記したものは立会調査である。
- 推定地は新条坊名称であり、『年報 都城10(付図)長岡京条坊復原図』財團法人向日市埋蔵文化財センター 1999年を参考にした。
- 井戸側規模は 平面規模×深さ を表記している。平面規模は井戸側の最大幅を、深さは検出面から底部までの値である。
- 掘形規模は掘形検出面の最大幅を示した。

- 注 1) 原 秀樹「長岡京跡左京第275次調査概要」『長岡京市報告書』第29冊 1992年
- 2) 岩崎 誠「左京第269次調査略報」『長岡京市センターレポート』平成3年度 1993年
- 3) 岩崎 誠「長岡京跡左京第37次調査概要」『長岡京市報告書』第14冊 1985年
- 4) 山本輝雄・近澤豊明「長岡京跡左京第102次調査概要」『長岡京市センターレポート』第2集 1985年
- 5) 岩崎 誠「長岡京跡左京第23次調査概要」『長岡京市報告書』第14冊 1985年
- 6) 未報告
- 7) 中尾秀正「長岡京跡左京第184次調査概要」『長岡京市報告書』第20冊 1988年
- 8) 中島皆夫「長岡京跡左京第484次調査概要」『長岡京市報告書』第45冊 2003年
- 9) 山本輝雄「長岡京の井戸」『長岡京古文化論叢』同朋舎出版 1986年
- 10) 宇野隆夫「井戸考」『史林』第65巻5号 1982年
- 11) 竹原一彦「長岡宮跡第99次発掘調査概要」『向日市報告書』第7集 1981年
- 12) 渡辺 博「長岡宮跡第178次発掘調査概要」『向日市報告書』第22集 1988年
- 13) 中塚 良「長岡宮跡第217次発掘調査概要」『向日市報告書』第25集 1989年
- 14) 中塚 良「長岡宮跡第248次発掘調査概要」『向日市報告書』第37集 1993年
- 15) 中塚 良「長岡宮跡第262次調査」『向日市センターレポート』平成3年度 1992年
- 16) 國下多美樹・清水みき「長岡宮跡第263次発掘調査概要」『向日市報告書』第36集 1993年
- 17) 秋山浩三・國下多美樹「長岡宮跡第278次発掘調査報告」『向日市報告書』第57集 2002年
- 18) 高橋美久二「長岡京跡左京三条二坊第2次発掘調査概要」『京都府概報』 1976年
- 19) 高橋美久二「長岡宮跡昭和51年度発掘調査概要」『京都府概報』 1977年
- 20) 山中 章「長岡京跡左京第15・27次発掘調査概要」『向日市報告書』第6集 1980年
- 21) 山中 章・丸 嘉樹「長岡京跡左京第22次発掘調査概要」『長岡京ニュース』第16号 1980年
- 22) 奥村清一郎他「長岡京跡左京第53次調査概要」『長岡京市報告書』第14冊 1985年
- 23) 『長岡京－京都都市計画道路1等大路第3類第46号外環状線整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』  
『埋蔵文化財発掘調査報告書』昭和55年度 1981年
- 24) 『京都市埋蔵文化財報告書』昭和55年度 1981年
- 25) 長谷川浩一他「長岡京跡左京第70次発掘調査概要」『向日市報告書』第8集 1982年
- 26) 鈴木久男他「左京四条二坊・三坊・四坊」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和56年度 1983年
- 27) 宮原晋一他「長岡京跡左京第106次発掘調査概要」『向日市報告書』第17集 1985年
- 28) 長谷川 達他「長岡京跡左京第118次発掘調査概要」『京都府センター概報』第15冊 1985年
- 29) 秋山浩三他「長岡京跡左京第120次発掘調査概要」『向日市報告書』第18集 1986年
- 30) 松崎俊郎・清水みき「長岡京跡左京第130次発掘調査概要」『向日市報告書』第27集 1989年
- 31) 鈴木廣司・長宗繁一「長岡京左京二条三・四坊」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和60年度 1988年
- 32) 鈴木廣司他「長岡京左京四条二・三坊」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和60年度 1988年
- 33) 國下多美樹他『向日市報告書』第51集 2000年
- 34) 山中 章「長岡京跡左京第157次発掘調査概要」『向日市報告書』第22集 1988年
- 35) 國下多美樹・清水みき「長岡京跡左京第159次発掘調査概要」『向日市報告書』第27集 1989年
- 36) 國下多美樹「長岡京跡左京第169次発掘調査概要」『向日市報告書』第30集 1990年
- 37) 秋山浩三「長岡京跡左京第172次発掘調査概要」『向日市報告書』第27集 1989年
- 38) 山本輝雄「左京第204次調査略報」『長岡京市センターレポート』昭和63年度 1990年
- 39) 秋山浩三「長岡京跡左京第209次発掘調査概要」『向日市報告書』第32集 1991年
- 40) 小田桐 淳「左京第210次調査略報」『長岡京市センターレポート』昭和63年度 1990年
- 41) 國下多美樹他「長岡京跡左京第196・214次発掘調査概要」『向日市報告書』第34集 1992年
- 42) 千喜良 淳「左京第215次調査略報」『長岡京市センターレポート』平成元年度 1991年
- 43) 小田桐 淳「左京第230次調査略報」『長岡京市センターレポート』平成元年度 1991年

- 44) 戸原和人他「長岡京跡左京第216・241・242次右京第349・357発掘調査概要(1)長岡京跡左京第241・242次」『京都府センター概報』第47冊 1992年
- 45) 石尾政信・鍋田 勇「名神高速道路関係遺跡発掘調査概要(1)長岡京跡左京第241・267・268次 向日工区」『京都府センター概報』第51冊 1992年
- 46) 秋山浩三他「長岡京跡左京第276次発掘調査概要」『向日市報告書』第36集 1993年
- 47) 山中 章・梅本康広他『向日市報告書』第56集 2003年
- 48) 長宗繁一・木下保明他『京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第17冊 1998年
- 49) 中島皆夫「左京第295次調査略報」『長岡京市センターワン報』平成4年度 1994年
- 50) 小田桐 淳「左京第297次調査略報」『長岡京市センターワン報』平成4年度 1994年
- 51) 松崎俊郎「長岡京跡左京第298次発掘調査報告」『向日市報告書』第53集 2001年
- 52) 國下多美樹「長岡京跡左京第299次発掘調査概要」『向日市報告書』第38集 1994年
- 53) 平良泰久・小池 寛他『京都府遺跡調査報告書』第28冊 2000年
- 54) 中島信親「長岡京跡左京第341次発掘調査概要」『向日市報告書』第45集 1997年
- 55) 山本輝雄「左京第414次調査略報」『長岡京市センターワン報』平成9年度 1999年
- 56) 梅本康広他『向日市報告書』第55集 2002年
- 57) 山口 均「長岡京跡左京第443次発掘調査報告」『向日市報告書』第58集 第1分冊 2002年
- 58) 小畠佳子「左京第444次調査概報」『長岡京市センターワン報』平成12年度 2002年
- 59) 家崎孝治「長岡京跡 (N G 16)」『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和58年度 1984年
- 60) 山本輝雄・久保哲正「長岡第九小学校建設にともなう発掘調査概要 長岡京跡右京第10次調査」『長岡京市報告書』第5冊 1980年
- 61) 山本輝雄・久保哲正「長岡第九小学校建設にともなう発掘調査概報 長岡京跡右京第28次調査」『長岡京市報告書』第5冊 1980年
- 62) 小田桐 淳「右京第111次調査概報」『長岡京市センターワン報』昭和57年度 1983年
- 63) 山本輝雄「右京第128次調査概報」『長岡京市センターワン報』昭和58年度 1984年
- 64) 岩崎 誠「右京第155次調査概報」『長岡京市センターワン報』昭和58年度 1984年
- 65) 木村泰彦「右京第196次調査概報」『長岡京市センターワン報』昭和60年度 1987年
- 66) 小田桐 淳「右京第236次調査略報」『長岡京市センターワン報』昭和61年度 1988年
- 67) 石尾政信「長岡京跡右京第240次発掘調査概要」『京都府センター概報』第23冊 1987年
- 68) 小田桐 淳「右京第246次調査略報」『長岡京市センターワン報』昭和61年度 1988年
- 69) 岩崎 誠『長岡京市センター報告書』第4集 1989年
- 70) 原 秀樹「右京第304次調査略報」『長岡京市センターワン報』昭和63年度 1990年
- 71) 小田桐 淳「右京第314次調査略報」『長岡京市センターワン報』昭和63年度 1990年
- 72) 中島皆夫「長岡京跡右京第364次調査概要」『長岡京市報告書』第27冊 1991年
- 73) 小田桐 淳・中島皆夫『長岡京市センター報告書』第10集 1997年
- 74) 山本輝雄・木村泰彦「右京第370次調査略報」『長岡京市センターワン報』平成3年度 1993年
- 75) 原 秀樹「右京第389次調査概報」『長岡京市センターワン報』平成3年度 1993年
- 76) 山本輝雄「右京第408次調査概報」『長岡京市センターワン報』平成4年度 1994年
- 77) 木村泰彦「右京第442次調査概報」『長岡京市センターワン報』平成5年度 1995年
- 78) 原 秀樹他「長岡京跡右京第479次調査概要」『長岡京市報告書』第33冊 1995年
- 79) 原 秀樹「右京第513次調査概報」『長岡京市センターワン報』平成7年度 1997年
- 80) 山本輝雄「右京第657・663次調査概報」『長岡京市センターワン報』平成11年度 2001年
- 81) 小田桐 淳『長岡京市センター報告書』第21集 2001年
- 82) 中島皆夫「右京第688次調査略報」『長岡京市センターワン報』平成12年度 2002年
- 83) 中尾秀正・白川成明「長岡京跡第8106次立会調査概要」『長岡京市報告書』第9冊 1982年

- 84) 小田桐 淳・岩崎 誠「立会調査」『長岡京市センター年報』昭和59年度 1985年  
 85) 花村 潔「第93300次立会調査概報」『長岡京市センター年報』平成5年度 1995年  
 86) 花村 潔「立会調査」『長岡京市センター年報』平成8年度 1998年  
 87) 高橋美久二「長岡京跡左京三条二坊第1次発掘調査概要」『京都府概報』 1975年  
 88) 戸原和人「長岡京跡左京第14次」『長岡京ニュース』第9・10号 1978年  
 89) 長宗繁一・本 弥八郎「左京四条三坊」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和57年度 1984年  
 90) 鈴木廣司・長宗繁一「長岡京左京四条二・三坊」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和61年度 1989年  
 91) 長宗繁一他「長岡京左京四条三・四坊」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和62年度 1991年

付表-11 報告書抄録

ふりがな	ながおかきょうあとさきょうだい479じはっくつちょうさほうこく
書名	長岡京跡左京第479次発掘調査報告
副書名	
シリーズ名	長岡京市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第32集
編著者名	中島 皆夫
編集機関	財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
所在地	〒617-0853 京都府長岡京市奥海印寺東条10-1

所 収 遺 跡 名	所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながおかきょうあと 長岡京跡 (左京第479次) くもみやいせき 雲宮遺跡 しばもといせき 芝本遺跡	ながおかきょうしこうたり 長岡京市神足 しばもと 芝本地内	26209	107 088 087	34度55分 07秒	135度42分 31秒	20021202 ～ 20030328	734	消防庁舎 建設工事

所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長岡京跡 (左京第479次)	都城跡	長岡京期	井戸・土坑・溝・建物	土師器・須恵器・黒色土器・製塙土器・曲物・櫛・瓦など	左京六条一坊五町の宅地
雲宮遺跡・芝本遺跡	集落跡	弥生時代 平安時代以降 鎌倉時代 江戸時代	溝 礫敷遺構 溝 溝・流路	弥生土器・石器 緑釉陶器・灰釉陶器 瓦器・金属製品など 土師器・染付	左京第102次調査に 次いで礫敷遺構を確認した。

緯度経度の測点は南調査区の中央部。また、緯度経度は国土座標旧測地系の数値から換算した。